

2019 年第 1 回 IEEE 東京支部理事会 議事録(案)

日 時：2019 年 3 月 27 日(水) 12:00～13:50

場 所：機械振興会館 6 階 6-65

出席者：徳田 Chair、宇佐見 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer

添谷(代理)、東盛、中村浩史、川西、中村聡(代理)、田中、鈴木、重松、高野、
吉田、笹瀬、杉江、野田 (敬称略、順不同)

オブザーバ：百武、梶川

事務局：加藤、木曾 幹事会社：今井、望月

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
2. 2019-20 東京支部理事会構成 (資料 2)
3. 2018 年決算報告および監査報告 (資料 3)
4. 2019 年活動計画および 2019 年予算 (資料 4)
5. 2019 年中間会計報告 (資料 5)
6. 2019 年総会資料 【審議】 (総会資料)
7. 委員会活動報告 (資料 7)
 - ・ Chapter Operations Committee (資料 7-1)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料 7-2)
 - ・ Membership Development Committee (資料 7-3)
 - ・ Technical Program Committee (資料 7-4)
 - ・ Publications Committee (資料 7-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 7-6)
 - ・ History Committee (資料 7-7)
8. Affinity Group 活動報告 (資料 8)
 - ・ Life Member Affinity Group (資料 8-1)
 - ・ Young Professionals Affinity Group (資料 8-2)

9. その他

・ JC WIE 報告

・ R10 Meeting 参加報告

・ [参考] グレード別会員数の推移

・ [参考] Society 別会員数の推移

(資料 9)

(資料 9-1)

(資料 9-2)

(資料 9-3-1)

(資料 9-3-2)

議事：

0. 徳田 Chair のご挨拶

徳田 Chair より開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】 (資料 1)

滝嶋 Secretary より前回理事会(2018 年第 4 回)の議事録について説明があった。
以上をもって、議事録は異議なく承認された。

2. 2019-20 東京支部理事会構成 (資料 2)

滝嶋 Secretary より 2019-20 東京支部理事会構成の確認があり、出席者の自己紹介が行われた。

3. 2018 年決算報告および監査報告 (資料 3)

羽渕 Treasurer から、2018 年決算報告について説明があった。

収入の部は本部からのリベート、ファンド、監査費用のサポート、口座預金の利息を含む。LMAG FUND が予算比 0%なのはニュースレターの発行と送付にかかる費用が対象外となったこと、YP FUND が予算比 221%となったこと、CB 口座はドル建てで利息が大きく予算比 324%となったことが理由である。支出の部は YP が予算比 178%となったが、全体収支は約 50 万円の黒字だった。

続いて、羽渕 Treasurer から監査報告があった。報告書においてキャッシュフローの固定負債の明細について指摘を受けたが、確認を行い問題なしとなった。

高野 LMAG Chair から、全員に郵送していたニュースレターを一部の送付にするなど、活動費用削減のための対応を始めたと説明があった。

4. 2019 年活動計画および 2019 年予算 (資料 4)

滝嶋 Secretary より、2019 年活動計画の説明があった。

羽渕 Treasurer より、2019 年予算案の説明があった。支出について役員交代による懇親会がないため減額を見込んでいる。LMAG と YP はリベートと支部からの支援費込みでの計画となっている。SB 支援費は SAC の活動費を承認して 70 万円である。

5. 2019 年中間会計報告 (資料 5)

羽渕 Treasurer より報告があった。FUND がマイナスなのは昨年分の一部 FUND を返金したものが計上され、全体として計画通り推移していることが理由である。

滝嶋 Secretary から、Section Assessment 還元について従来よりも多く受け取っており、各支部の活発な活動と経費が期待されていると話があった。

杉江 Past Secretary から予備費 70 万円の用途について質問があった。羽渕 Treasurer から R10 関連活動等への参加支援費として見込んでいると回答があった。

6. 2019年総会資料【審議 ⇒ 承認】

(総会資料)

滝嶋 Secretary より、総会資料第1号議案から第5号議案の説明があった。

東盛 Fellow Nominations Chair から、2016年から年間約10名程度 Fellow が減少している理由について質問があり、笹瀬 Past Chair から、おそらく亡くなられたためとの説明があった。

以上をもって、2019年総会資料は異議なく承認された。

7. 委員会活動報告

(資料7)

・ Chapter Operations Committee

(資料7-1)

添谷 COC Secretary より、Technical Co-Sponsorship 2件に関する答申状況の説明があった。2019 ICESI について、Application Letter での申請を受けて関連支部承認後の MoU となった。

滝嶋 Secretary から、MoU 承認前の処理となった経緯について質問があった。添谷 Secretary からは、笹瀬 前 Chair に Application Letter が届き、高村 前 Chair が費用発生しないことを確認して事前承認となったと回答があった。杉江 Past Secretary から、昨年から MoU のルールが変わり、IEEE 本部申請前に関連 Chapter で事前協議している事例があり、今後も増えるだろうと説明があった。滝嶋 Secretary から現在 MoU のフローの整理を進めているために情報共有を継続してほしいとの話があった。

・ Fellow Nominations Committee

(資料7-2)

東盛 Chair より報告があった。Fellow ノミネーションのリファレンスが5名から3名に変更となり、ノミネーションしやすい状況を積極的にメール配信することが、また、事務局への質問が多い内容は Web サイトでわかりやすく整理する説明があった。滝嶋 Secretary から、JC のホームページに「senior member 申請方法」の案内があり、そこに推薦資格者を検索できる”Collaboratec”の紹介があることが述べられた。

笹瀬 Past Chair から、不足するリファレンスを Region Chair に求める依頼があっても対応しなかった経緯が説明され、クレームとならないような配慮のもと、今年からの方針は徳田 Chair に決めていただきたいと話があった。杉江 Past Secretary から、Section 活動が主体の IEEE では、Section Chair への問い合わせや依頼は今後も増える可能性があるという意見があった。

高野 LMAG Chair からリファレンスを減らした理由について質問があった。東盛 Fellow Nominations Chair から OSA の推薦人数5名を参考にしているのではないかと回答があった。高野 LMAG Chair からリファレンスの紹介や基準の告知について話があり、東盛 Fellow Nominations Chair からはリファレンスの具体的な紹介はできないが、依頼があった場合、Web で状況をわかりやすく示すことなどについて回答があった。

・ Membership Development Committee

(資料 7-3)

中村 Chair より会員数の増加と会員維持に向けて関係者で議論した内容の報告があった。

・ Technical Program Committee

(資料 7-4)

川西 Chair より報告があった。計画済み 2 回の講演会以外に TPC 主催で 5 回開催予定があること、従来は Fellow を中心に講演を依頼してきたが、加えて 2019 年後半に向けて、YP などとも連携した幅広い講演会を企画していく説明があった。

・ Publications Committee 【一部審議 ⇒ 承認】

(資料 7-5)

田中 Chair より、Tokyo Bulletin の発行など、これまでの活動と今後の活動計画の説明があった。ファイルサーバの整理を予定していることが示され、現行のファイルサーバを継続利用する場合は 5 月 31 日までに Publications Committee に連絡をするよう依頼があった。また、今井 Secretary から吉原 Secretary への交代が承認された。

滝嶋 Section Secretary から、イベント報告に限らず告知・呼びかけなども掲載可能であり、適宜相談いただきたいとの話があった。

徳田 Chair から、Garoon のアカウント配布者及び取り扱う情報に関する質問があった。田中 Publications Committee Chair から、事務局を含めて本理事会の参加者全員にアカウントを付与すること、マニュアル、スケジュール、ワークフロー等を Garoon 上で利用可能にするとの回答があった。

・ Student Activities Committee

(資料 7-6)

中村 Vice Chair より、2019 年度予算の説明があった。

笹瀬 Past Chair から、学生が実施報告をルール通りに行うよう適切な管理の依頼があった。

滝嶋 Secretary から、報告の遅滞が会計に大きく影響するため、支出予定の情報共有への依頼がなされ、中村 Vice Chair から次回理事会までに報告するとの回答があった。

・ History Committee

(資料 7-7)

鈴木 Chair より 2019 年 1Q の活動などの報告があった。配布資料に記載はないが、東工大から 2 件、電気通信大から 1 件が準備されていること、また、2019 年 9 月（8 月ではなく）に行われる HISTELCON 2019 の開催概要が述べられた。

笹瀬 Past Chair から、IEEE Milestone は企業からみても重要で経営層からも大きな注目を浴びること、表彰式は人が集まる場・イベントにすることの重要性が述べられた。

8. Affinity Group 活動報告 (資料 8)

・ Life Member Affinity Group (資料 8-1)

高野 Chair よりこれまでの活動と今後の活動計画の説明があった。

・ Young Professionals Affinity Group 【一部審議 ⇒ 承認】 (資料 8-2)

吉田 Chair より、2019 年 IEEE Tokyo YP 役員及び年間計画について説明があった。前回理事会からの変更点として、SYWL Workshop の一部予算を IEEE ハックチャレンジに回すものの、総額には変更がないとの説明がなされ、異議なく承認された。

またこれまでの活動報告があった。横浜でのイベントは学術会議との併催で資金援助が発生するため、横浜で開催予定の国際会議を紹介いただきたいと依頼があった。

徳田 Chair から、対象となる国際会議の範囲について質問があった。吉田 Chair から詳細を別途共有すると回答があった。杉江 Past Secretary から、資金調達の一手段として、IEEE Education Activity や R10 のファンド活用について提案があった。

9. その他 (資料 9)

・ JC WIE 報告 (資料 9-1)

野田 Chair より報告があった。WIE2019 を行うこと、JC WIE 主管として最終年度となるため外部講師ではなく内部役員・会員で総括することと説明があった。11 月に都内の大学で開催を予定しているが、経費削減のために適切な会場があれば紹介いただきたいと依頼があった。また支部移行を円滑に進めるため、現時点で WIE を持たない支部との調整、単独支部で設立が困難な場合は Joint とするなどの調整案の説明があった。

笹瀬 Vice Chair から、支部 WIE がいない地域の参加者に対するイベント参加旅費等の補助について質問があった。杉江 Past Secretary から、単独で WIE を形成できない支部では複数支部で Joint を組み、ヘッドとなる支部がこれを管理すること、移行期は JC WIE が全体を管理することが述べられた。

・ R10 Meeting 参加報告 (資料 9-2)

滝嶋 Secretary より IEEE R10 Meeting の報告があった。昨年導入されたインセンティブの仕組みについて、2019 年は申請数拡大のため事前周知を強化すること、TENCON2020 を日本で開催予定であることなどとともに、東京支部が Best Membership Retention Large Section Award の表彰を、東京支部の鈴木麻由美氏が Best YP Volunteer Award in Industry の表彰を受けたことが紹介された。

・ [参考] グレード別会員数の推移 (資料 9-3-1)

・ [参考] Society 別会員数の推移 (資料 9-3-2)

以上